



森のなかま

2022年 10月号

NO. 172 (継続317号)

NPO法人かながわ森林インストラクターの会 <http://www.forest-kanagawa.jp> 発行人 佐藤 恭平
〒243-0018 厚木市中町2丁目13番14号・サンシャインビル6階604号 TEL046-297-0301・Fax046-297-0302

自然観察部会「探鳥会 開催報告」

日時： 2022年7月24日(日)

場所： 足柄ふれあいの村

講師： 吉田文雄氏 助手 高梨氏

参加者 10名

杉崎⑩、小笠原⑪、松本⑪、上宮田⑪、鈴木⑭、藤井世⑭、藤井敏⑭、岩田⑭、河西⑮、赤崎⑫

(記 写真 赤崎 さほり ⑫)

自然観察部会では、研修会として1年のうち、夏と冬の2回、探鳥会(野鳥の観察会)を行っております。今回は夏の探鳥会でしたが、ここ数年は感染症対策の為に開催が中止になっており、久々の開催でした。開催場所は足柄ふれあいの村とし、講師には、吉田文雄氏とその助手の高梨氏にお願いしました。(吉田文雄氏は以前、当会の森林文化講演会にて講話をしてくださったことがあります。)

まず、屋内にて神奈川県にて確認できる夏鳥の講義を受け、その後に足柄ふれあいの村を歩きながら野鳥を探しました。

天気の良い日でしたが、とにかく野鳥の見つけられない日でした。しかしながら、講師のお二方は昆虫やコケ、樹木などいろいろな説明をしてくださり、自然観察のアイデアを沢山いただくことができました。



90分ほど園内をゆっくり回り、今日はヒヨドリくらいしか出会えなかったね、と最後に参加者と話していたところ、ヒリリリーという力強い声が聞こえてきました。なんと、リュウキュウサンショウクイがこちらに向かって羽ばたいてきたのです。

(リュウキュウサンショウクイは最近関東にも北上してきている種です。)そしてそのまま、我々の目の前のケヤキの枝をあっちこつちに鳴きながら飛びまわってくれたのです。全員、その姿に釘付けになりました。最後の最後に素晴らしい出会いがあり、有意義な研修会であったと思います。

なお、吉田文雄氏は「自然は友だち 春夏編—足柄山地をめぐる 出会う生きもののたちのふしぎ」という著書が出版されており、当日の購入者はサインをいただくことができ感激しておりました。



リュウキュウサンショウクイ(写真 吉田氏提供)

< 森林技術部会 主催 >

「間伐研修会②」

日時： 2022 年 8 月 28 日（日）9：00～15：00

場所： 風切り水源林

目的： 学校関係の NW 活動のインストラクター養成

講師： 統括岩田 典義⑭ 佐藤 武晴⑤、滝澤 洋子⑤、小野 幸広⑦

受講インストラクター： 上宮田 幸恵⑪、真貝 勝⑪、湯浅 鉄男⑪、古館 信生⑬、鈴木 淳⑬、
牧石 稔⑭、水野 安則⑭、石垣 桃栄⑮、中澤 靖彦⑯、松浦 正⑯

（記 松浦 正⑯ 写真 滝澤 洋子⑤）

間伐研修会①（8 月 13 日）が天候不良で中止となり、今回の間伐研修会②（8 月 28 日）は小雨決行となりました。連日の猛暑日から一転し 25℃前後の過ごしやすい気温でしたが、霧雨の中、空模様を気にしながらのスタートとなりました。

本研修会は間伐の技術には重点をおかず、学校関係の NW 活動（小学校の間伐体験）にインストラクターが活用できる要領書のような資料の作成を目的とした研修の内容です。講師はインストラクター役、参加者は小学生役となり生徒との合流から解散までの各工程を再現し、資料に記載すべき内容・注意点・補足等を抽出しました。風切り水源林で開催しましたが、長竹分収林での活動も想定しながら進めました。

工程は、合流→道具配布→移動→間伐（選木・ロープ掛け・伐倒・枝払い・玉切・整理等）→コースター作り→移動→道具清掃・回収→解散（お別れ）まで、森林講話を含む一連の活動です。

準備体操後、各工程を参加者全員で議論しながら再現しました。各工程で議論が白熱し時間が押し気味でしたが何とか全工程を終了しました。12 時ごろより本降りとなり急遽予定変更し、21 世紀の森の研修室で昼食後ディスカッション再開となりました。

全体を通して以下の項目などが確認され、若手インストラクターには有意義な時間でした。

「インストラクター 1 名で 10 名程度の生徒を見るので各班の班長（リーダー的生徒）を見出して連携すると進行がスムーズ」、「移動時、ロープ掛け棒のような列を乱す道具の運搬は危険防止のためインストラクターが持って移動する」、「ロープ掛け時に上方を注視すると枝が落下し目に入ることがあるので注意を促す」、「可能な限り全生徒に伐倒時の鋸引き作業（受け口、追い口切り）を経験させる。生徒の作業は短時間で 2 度回すほうが効果的（2 回目のほうが上手くなる）」、「コースター作りは『お土産』の要素もあるが、生徒が帰宅時に家族との『会話の材料』として有意義」、「ヘルメットを外すと『終わった気分』になるので用具手入れ後最後にヘルメットを回収する」など。

本研修会を通じて小学校の間伐体験の基本的な動作・知識について確認する機会を得ました。またベテランから若手までそれぞれの立場で議論白熱しインストラクター間の擦り合わせが出来大変充実した内容でした。



小学生への説明方法解説



小学生役が交代で鋸を挽く

森のめぐみ シリーズ

枠組は桜の小枝です

前回タイヘイヨウイチイから見出された抗がん成分タキソールについてご紹介しました。植物からの抗がん物質の探索にはその成分を見出すのに困難を伴い、さらにタキソールの例のように医薬品として利用できるまでに長期間を要すものもあります。しかしヒトの考えの及ばぬ構造をもつ有用物質を植物が教えてくれる、これこそが自然のめぐみなのです。

これまでに植物起源の抗がん剤は開発されています。キョウチクトウ科のニチニチソウから得られたビンクリスチン、ビンブラスチンというアルカロイドもその一つです。この物質もヒトの頭では考えられないような複雑な構造をもつ化合物です。白血病や悪性リンパ腫に効果を発揮します。

ニチニチソウはピンクや白、紫などの小さな花を咲かせる草花で、マダガスカル原産ということになっていますが実際はカリブ海沿岸地域が原産地であるとも言われています。本来、比較的暖かい地方に生育している花ですが、わが国でも最近をよくみられるようになっています。根、茎、葉の全草が古くから民間療法で糖尿病、胃潰瘍、消化不良などに使用されてきています。キョウチクトウ科の植物はアルカロイドを含むものが多く毒性を有するものも少なくありません。ニチニチソウの場合も民間で使用する場合は注意が必要です。



ニチニチソウ

民間療法で用いられてきた植物についての情報源は有効成分の発掘に有力な手掛かりとなります。最近ナレッジ(Knowledge)という言葉をよく耳にします。知識、情報といった意味を持つ言葉ですが、事例や経験・知識といった意味でビジ

第47回 植物からがんを抑える成分の発掘

東京大学名誉教授 谷田貝 光克 氏

ネスの場面で使われるようです。また、民間で伝統的に行われてきた事例や技術などにもナレッジは使われ、民間伝承的な事例・技術を次世代につなごうという動きも見られます。民間薬などのナレッジも現代科学の力でその効能や効率の良い利用の仕方などを見いだすよい情報となることでしょう。

中国原産の喜樹という木の樹皮と幹からもがん細胞の増殖を抑制するカンプトテシンという成分が米国の化学者によって見いだされています。喜樹はカンレンボクという名も持つ成長力の強い木で中国の南部地域では街路樹や庭園樹として植栽されています。喜樹の根や葉には抗菌作用、抗腫瘍作用があり、古くから中国では民間薬として利用されてきました。



喜樹 (カンレンボク)

カンプトテシンは臨床試験で強い抗がん活性があることが分かったのですが、副作用があるために医薬品として実用化されませんでした。そこでこの化合物をもとにして数多くの誘導体が合成され、その中のいくつかが実用に供されています。

天然物からの医薬品開発は長期間を有するものが多く、開発にも多額の費用を要します。そして薬効は認められても臨床試験で副作用が認められ医薬品としての開発がやむなく断念されることも少なくありません。しかしながらヒトの考えでは及ばぬ化学構造をもつ物質の発掘につながることやそれを基にしてさらに活性の強いものを合成できること、もし副作用があったにしてもそれを基にして実用化できるものを合成することも可能であることなどの利点があります。

イラスト 広報 11 期長尾 (旧姓大塚) 晴子

かながわ森林インストラクターの会紹介 (技術委員会) (記 委員長 松永 廣⑪)

技術委員会の役割は会員の技術力アップが第一である。

森林技術部会の協力により次のマニュアルを作成しました

- ① 植栽作業マニュアル
- ② 下刈り・鎌研ぎ作業マニュアル
- ③ 枝打ち作業マニュアル
- ④ 間伐作業マニュアル
- ⑤ 竹林整備作業マニュアル
- ⑥ 除伐・つる切り作業マニュアル

上記の 6 作業のマニュアルを会員向けホームページに掲載して運用しています。

会員向けホームページに掲載してあることは総会、ネットワーク活動、県民参加の森林づくり、森林インストラクター養成講座など機会あることにアナウンスをして周知を図っています。

一つのことを説明するのにも表現の仕方、言葉の表し方、ワードなど多種多様あり、相手が理解するのにはどのようにすればいいか複数の人間で討議して決めています、大変苦労しています。森林整備作業は大昔から実践されているので変化がないように感じられますが、裸苗木からポット育成苗木、無花粉スギ、小花粉ヒノキなど社会ニーズも変化してきています。

基本は安全で楽しい現場作業が一番と捉えています。

森林インストラクターから連想することは「定年退職後暇つぶし作業」でいいのだという考えもありますが、現代社会の課題である二酸化炭素削減、温暖化防止などを達成するには森林の役割が非常に重要です。目先のことだけでなく S D G s の考えを組み込んで会員である森林インストラクターの技術力向上に取り組んでいきます。

森林整備作業で最初に手にする道具は手鋸です。

イラスト引用元：森づくり安全技術・技能全国推進協議会発行

森づくり安全技術マニュアル（基本編）



かながわ森林インストラクターの会紹介 (三井住友オートサービス(SMAS)の森事業部) (記 事業部長 松石 藤夫①)

住友三井オートサービス株式会社(SMAS)が行う「SMASの森づくり体験活動」が円滑に推進し充実したものとなるため、体験活動に係る計画書の作成、体験活動の指導及び環境整備、植生調査の実施、活動により、四季報などの情報発信業務を行っています。

SMASの森は、「足柄ふれあいの村」に近く、一帯は、神奈川県が取り組む「水源林づくり」事業で、県民と行政が力を合わせ森林所有者と共に整備されています。その中で、SMASの森は針葉樹林、広葉樹林、草原などで構成されている多様性に富んだ森で、四季ごとに多くの動植物が見られます。

森づくり体験活動

年間4回程度実施されています。全国の事業所から社員の方が参加され、精力的に森林整備活動を行っています。



ヒノキの植栽



ヒノキ植栽地の下刈り



カブトムシ集まれ!



ターザン!!

環境整備、植生調査活動

担当インストラクターが定期的に森林整備と植生調査などを行っています。

活動を通してインストラクター自身のスキルアップにも努めています。



ナラ枯れの大木を処理



間伐材の利用



活動短 信

今回の掲載は R4 年 6 月 13 日から 8 月 23 日分です。
寄稿頂いた中には、紙面都合や寄稿タイミングで次号以降の掲載になるものもあります。

10 月(神無月)(旧暦 9 月長月)の 二十四節気と田んぼ(鎌倉)の様子

寒露 10/8 頃

雁が飛来し菊が花をつけて、秋の虫が戸口で鳴くころ。田んぼでは稲刈り真っ最中です。

霜降 10/23 頃

霜が降り始め、一雨ごとに気温が下がり、木の葉が色づきます。稲刈り後天日干しをした稲の脱穀です。

活動短信への投稿概略フォーマットと略語の説明
ページレイアウトは気にせずベタ書きで結構です。
(できれば Word、メール直筆でも OK。Excel はできるだけ避けてください。改行等の処理に手間を要しますので写真もあれば添付ください。)

◆ 活動団体・活動名 等

日付(できれば時間と天気も)

場所 (例:相模原市緑区 長竹承継分収林)

参加者 人数

例 神奈川県 環境農政局 緑政部

水源環境保全課 水源の森林推進グループ

財(公財)かながわトラストみどり財団、看 看護師

スタッフ 例 小田原市森林組合 XX 様

例 川崎市公園緑地協会・XX 様

イ インストラクター① (○数字:期) 研:研修枠

以下、本文を概ね 400 字前後を目安として執筆ください
リーダーは責任を持って執筆者の選択と執筆後のチェックをお願いします。(執筆者名もお忘れなく!!)

活動終了後の速やかな投稿をお願いいたします。

◆ 横浜市立相沢小学校 七沢宿泊体験学習

日 令和 4 年 6 月 13(月) 10:00~13:30

場 厚木市七沢森林公園

参 137 名(4・5 年生児童 125 名 教師 12 名)

県 環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様、村田様

イ L 野牛⑧ 森本⑤ 小野⑦ 内野⑨ 西出⑫ 牧石⑭
飛田⑮ 大友⑯ 大森⑯ 久次米⑯ 佐藤悦⑯ 中村⑯

梅雨の晴れ間となった散策日和。4、5 年生の混合チーム、先生、インストラクターでひとつの班を作り、合計 11 班で七沢森林公園を散策しました。管理事務所前をスタートし、おおやま広場〜尾根道〜ながめの丘〜野外ステージまで約 1 時間半のコース。歩き始めは長い登りで、大人でもきつい坂を頑張って登りました。昨年の 12 月にもこの公園を訪れていた 5 年生は、冬の森との違いに気が付き「葉が緑だ！」などの声が上がっていました。

最初の休憩場所となる『おおやま広場』からは大山が

きれいに見えていたので、みなさんが住む横浜からでもよく見えることを伝えました。朝から気温が上がりみんな早くも汗だくに。尾根道へ入るところで風が変わり、涼しさを感じた子どもたちの顔がほころびました。

近年問題となっている、「カシノナガキクイムシ」による樹木への被害。その対策として粘着力のあるシートが巻き付けられた樹木が尾根道に何本かありました。歩きながらそのことに触れようと思っていたのですが、昨年来たときに説明を聞いていた 5 年生がいち早く見付け、4 年生に説明をしてくれました。

昼食後は芝生のある広場で、フィールドビンゴを使い感じることを体験する班、落ちていた葉を使い顔を作る班、森林についての話を聞く班など、班ごとに様々な活動を行いました。ビンゴのお題の 1 つ「良いにおい」を探した時に、ドクダミの葉を「良いにおい」と感じる子どもたちが居るなど、多くの班で個人の感じ方に差があったようでした。それぞれ感じる世界が違うのだと改めて気付かされました。

事前に森林について学習をしてきていたこともあり、積極的に質問したり、自ら発見するなど、活発な生徒が多かったように感じました。(記 中村 ふみ子⑯)

◆ 横浜市立公田小学校

愛川ふれあいの村 自然観察

日 令和 4 年 7 月 13 日(金) 9:30~11:00 雨

場 県立愛川ふれあいの村

参 先生 6 名、児童 47 名、計 53 名

イ L 内野⑨ 西出⑫、松石⑬、西岡⑭、牧石⑭、中村⑯

小雨の中でしたが、各インストラクターが班を引率して愛川ふれあいの村の中を探索し、「神奈川の豊かな自然に子どもたちが気づくことができる機会に」をテーマに自然観察を行いました。宿泊行事の 2 日目で、一日目は宮ヶ瀬ダムを見学しているので、宮ヶ瀬ダムが見えるところではそれにつながるような緑のダムの話をするなど、各所で森のはたらきについて説明しました。

マテバシイの 1 年目と 2 年目の実を見ました。持参した成熟したマテバシイの実と比べると 2 年目の実もかなり小さくこれから秋にかけて急速に大きくなることがわかりました。クズ、オニドコロなどいろいろなつる性植物が林縁を覆っているところでは、マント群落の役割と昆虫との共生について話しました。オニグルミの実をリスやネズミのかじったのをみたり、イロハモミジの実をくるくるとまわして飛ばしたりしました。

小雨で蒸し暑くヤマビルの活動には最適な日であり、たくさんヤマビルを観察できましたが、後半はヤマビルに夢中になり、やや観察に集中できないところがありました。(記 西岡 一郎⑭)

◆ 第 6 回 県民参加の森づくり活動

下草刈り

日 令和 4 年 7 月 17 日(日) 9:00-13:20 曇り後晴れ

場 山北町都夫良野(共和財産区有林)

参 36 名

財 豊丸課長、藤本様

看 佃様

スタッフ 共和財産区 杉本様

山北町農林課 尾崎様 薮田様

山北町森林組合 2 名

イ L 滝澤⑤、上田⑩、吉田⑪、上宮田⑪、江上⑬、古舘⑬、
岩田⑭、大原⑬、角石⑭、水野⑭、大友⑯

順延と朝の雨のためか、参加予定 75 名のところ森林
への思いが深い 36 名の精鋭が参集。

オリエンテーションでは、共和財産区の杉本様から、
歌舞伎座の舞台材に提供された森林のヒノキ輪切りやス
ギノアカネトラカミキリの侵入で材の中が黒くなった木
の輪切りを見せて頂き、参加者皆さんは手に取ってじっ
くり見ていた。また災害に強い山にするためそして野生
動物の餌にもなるどんぐりの木を植えているなどのお話
を伺った。本日の現場もクヌギ・コナラが主に植えられ
た場所である。

班ごとにインストラクターから鎌の使い方などの説明
を受けて、背の高くなった草や覆いかぶさったクズなど
を刈っていく。支柱から離れて草に埋もれた苗木を探し
ながらの作業はなかなか大変。斜面の刈った草で滑らな
いよう、本日の安全目標は「足元注意」。クヌギやコナ
ラより成長の早いクワやネムノキは伐ることにした。6
歳と 7 歳の子も小さい鎌で奮戦。杉本様や山北町職員も
作業に参加くださった。暑い中で頻りに休憩と給水を取
り、財団が用意してくれた塩飴にも助けられた。

場所を移動して県立山北つぶらの公園にて閉会と昼
食。足柄茶と町営さくらの湯の無料入浴券を頂き、早速
山北駅で電車の時間までに汗を流してきた参加者もおい
でだった。

作業終盤に一人蜂に刺されてしまった。土の窪みに小
さな巣があり、攻撃性の強いキイロスズメバが 2 頭飛ん
でいた。この巣は今後高く広い場所に引っ越すと思われ
るが、今回はインストラクターも巣の存在に気づかずに
申し訳なかった。これから秋にかけて蜂は活発になるの
で、うっかり鎌を草の中に突っ込まないよう、下刈り時
には蜂の動きにも注意していきたい。

(記 滝澤 洋子⑤)

◆ 神奈川県立 21 世紀の森

「自然観察会③ 植物・昆虫観察会」

日 令和 4 年 7 月 17 日(日) 9:00-12:00 曇りのち晴れ

場 県立 21 世紀の森 (森林館、園内散策路)

参 大人 6 名、子供 7 名

スタッフ 県立 21 世紀の森副所長 野村様、早川様、
箱根蝶の会 神保氏(オブザーバー)

イ L 杉崎⑩、河西⑮

県立 21 世紀の森で企画された夏休み直前の植物、昆
虫観察会。雨で開催が危ぶまれましたが、天候回復の予
報で前日に開催決定。当日は、直前までの悪天候にも関
わらずキャンセル無しの全員参加でした。本日主役の子
供たち 7 名は皆、捕虫網と虫かごを装備して、やる気
満々でした。この日は、森林館周辺の散策路で植物と昆
虫を観察し、五感を使って身近な自然を学び、親しんで
もらうことを主眼としていましたが、子供たちからの
「早く虫捕りさせて！」オーラは半端ではなく、「親し
む」レベルでは到底終わらないような予感がいたしまし
た。



副所長の野村様からのオリエンテーションの後、杉崎
さんから「自然を感じる機会として下さい」とご挨拶。
今日出会える 4 種の植物(スギ、ヒノキ、カツラ、クス
ノキ; 参加者には名前を明かさず)の「芳香」を参加者
の皆さんに嗅いでもらい、いざ出発となりました。

森林館近くの池からスタートし、金太郎コースを辿り
ながら、林間広場、カツラの森、運動広場を抜けて森林
館に戻るルートは、短いながら変化に富み、様々な動植
物に会うことができました。池には、ショウジョウトン
ボ、クロスジギンヤンマの姿があり、樹上にはモリアオ
ガエルの卵塊。特別許可をいただいて池に網を入れる
と、(モリアオガエルと思われる)オタマジャクシとヤ
ゴが入り、皆で観察することができました。林間広場
には多くのバッタの仲間(キリギリスやショウリウバッ
タなど)、チョウ類(ジャノメチョウ、アオスジアゲ
ハ、クロアゲハなど)。道々、クサギ、カツラ、クス
ノキ、などの葉の匂いを嗅いだり、コクサギの葉のつき方
が二枚ずつ交互になっていることを観察したりしまし
た。クズの茎を切ってもらい、中の栄養満点の液を味わ

い、その茎で今度はシャボン玉作りに挑戦すると、ぶくぶくと細かい泡がつながる不思議なシャボン玉が出来てびっくり！

大人も子供も新たに発見したり感じたものに歓声を上げたり、不思議だねと感想を出し合ったりしながら、あっという間の観察会でした。参加



クズのシャボン玉

者の皆さんは、特に昆虫に対する情熱が半端なく、中にはインストラクター顔負けの知識と虫捕り技術を披露してくださった母子もいらっしゃいました。私も、昆虫少年だった数十年前を懐かしく思い出しつつ、パワーを貰った観察会となりました。ただ、直前の雨で樹液に集まる虫が見えず（わずかにカナブンだけ）、アンケート次回の希望は「ナイトツアー」が圧倒的多数でした。みんな、カブトムシとクワガタをゲットしたかったのね・・・

(記 写真 河西 静夫⑮)

◆ 日揮グループ 水源林保全活動

日 令和 4 年 7 月 23 日(土) 9:00～15:30 晴れ

場 やどりき水源林

参 大人 4名 小人 2名

イ L上宮田⑩ 吉田⑩

プログラム：

- ① 8:15 新松田駅集合（事務局の車に同乗）
- ② 9:25 やどりき水源林に移動
- ③ 10:00 やどりき水源林到着 活動の説明、
- ④ 10:10～11:30 水棲生物の採集と観察
- ⑤ 11:30～13:00 昼食・スイカ割大会
- ⑥ 13:00～14:30 丸太切りとクラフト～森の散策
- ⑦ 14:30～15:00 帰りの準備～解散

プログラムに沿って事務局より一日の流れを説明、水生生物の役割の説明の後、水の中を散策できる服装・靴に履き替え、子供達にはライフジャケットを着て頂きました。

早速流れの緩やかな場所を目指しじゃぶじゃぶと音を立てながら水の中を歩きます。奥に進むと想像以上の迫力の滝郷の滝を目に皆さんから感動の声！滝からのシャワーを浴びながら涼んだところで、神奈川の森や川・水についても触れてみました。さあいよいよ水生生物の採取です。採取の仕方を説明し、流れの緩やかな場所・少し早い場所などに網を入れそばの石を動かしますと落ち葉で網の中が一杯になります。それをゆすぐようにバケツに移し入れます。30 分ほどでバケツの中は落葉と様々



な動く生物で一杯になりました！

オタマジャクシ・カエル・カジカ・プラナリアも見えます！広場に戻りバケツの中のを白いトレイに移し、落葉を取り除いた後、生物をシャーレに移し、拡大鏡で観察しながらそれぞれの役割について説明しました。コケを食べる生物・水を綺麗にする役割・鳥や他の動物に食べられてしまうが自然界の循環に大きな役割があることなど。森の案内人やニュース取材のインストラクターも加わり、皆の知識が花開き、生き物の特徴をさらに深め皆さんにお伝えしました。今日は思いのほか沢山の生き物に出会えました。小学 5 年生の男の子は学校でも水についての学習を始めたばかりでとても興味深げでした。



お昼休憩後はスイカ割の大イベントも楽しみ、午後は丸太切りとクラフトを行いボンが乾くまで、日揮の森まで散策をしました。熱中症やケガもなく 2 家族参加で内容の濃い楽しい活動になった様です。

(記 写真 上宮田 幸恵⑩)

かながわしずくちゃん Facebook は下記URLで見ることができます。



かながわ森林インストラクターの会は『緑の募金』の支援団体としても取組んでいます。

全国で 5 番目／NPO 法人で初めて委嘱されています。

◆ 神奈川トヨタ自動車株式会社

夏休みは「プリウス森木会の森」で楽しもう！

日 令和 4 年 8 月 23 日(火) 8:30～13:30

場 やどりき水源林

参 大人 12 名 子ども 1 名(スタッフ含む)

県 県環境農政局 緑政部 水源環境保全課

水源の森林推進グループ 岡田様 黒田様

看 佃様

イ L 内野⑨、山崎⑦、辻村⑨、松本⑪、牧石⑭、石垣⑮

台風の影響のため日程変更となり、参加者は当初より減りました。テント横に鎮座するエコカーの前に集合し、本日の活動説明と注意・体操の後、河原に移動し水生生物観察開始です。

川の流れの変化により、生物が見つかるか心配でしたが、カゲロウ・カワゲラ・トビケラの幼虫の水生昆虫御三家・さらにカジカガエルのオタマジャクシを見つけ、細やかで素早い動きを観察する事ができました。広場へ戻る途中、カジカガエルを捕まえた親子が吸盤の見事さに見入っていました。

足回りを整え、さあ次は堰堤までのトレッキングです！先週の台風により川筋の変化・増水もあり、加えて今回皆さまと共に暮らすワンちゃん・5匹も一緒に、という普段とは異なる隊



列での沢歩きとなりました。清流沿いに大岩越え、狭い岩の隙間を抜け、ジャブジャブと流れを渡り、全員(全犬!!)堰堤の元に到着です！迫力ある水音としぶきを受け、冷気を感じ清々しい気持ちになった後、林道へと戻り入念にヒルチェック。捕獲したものの皆さん実害は無く無事に広場へ戻り、解散となりました。

親子で参加の女の子は、弟へのお土産！とコースターを手「たのしかったあ」のひと声。その後、ご夫妻で丸太切りに挑戦される方も居て、皆さま夏の日を楽しまれたご様子でした。(記 石垣 桃栄⑮ 写真 内野 ミドリ⑨)

◆ 相模原市

森を感じる林業魅力体験ツアー

日 令和 4 年 8 月 19 日(金) 9:30～16:00 曇り

場 相模原市緑区 嵐山の森(相模湖)他

参 17 名

スタッフ 相模原市森林政策課岡本様、他職員様 4 名、JTB 相模原支店様 3 名、さがみはら津久井森林組合 2 名様

イ L 松石藤夫⑬、大友博道⑯

本ツアーは、相模原市の若手職員を中心に中山間地区の課題解決や振興を図るための企画会で提案されたもので、林業の人手不足や担い手不足の課題に対して小中学生に楽しみながら林業を学んで欲しいと企画されました。

親子参加者(小中学生 9 名・保護者 7 名)は、JTB 手配の小型バスに乗り、相模湖大橋駐車場に到着。2 チームに分かれて相模ダム・発電所の外観見学や自然観察を楽しみながら嵐山山麓の水源涵養林(ヒノキと広葉樹)に向かいました。

相模原市の挨拶の後、林業体験が始まりました。松石リーダーより「森林の働き、森林の育成、森林整備について」のミニ講和があり、子供たちは真剣に耳を傾けていました。次はいよいよ間伐体験です。1 チームずつ交代でヒノキ(約 20 cm 径、樹高約 7m)間伐とホウノキ除伐を行いました。子ども達は慣れない鋸に戸惑い、引くと同時に尻もちをつく子もいましたが、次第に感覚をつかむと楽しそうに作業をしていました。保護者は子供以上に真剣に鋸を引き、イケてるお父さんお母さんの笑顔が素敵でした。最後は全員でロープを引っ張り伐倒すると大歓声が沸き上がりました。枝払い、玉切り、コースター材にした後に、工作会場へ場所を移し記念品のコースター工作(紙ヤスリ、焼印/絵付け)を行いました。当日は神奈川新聞社とタウンニュース社の取材があり、その模様がメディア報道されました。

◆ タウンニュース社

<https://www.townnews.co.jp/0303/2022/08/25/638922.html>



森林ミニ講和



ツアーチラシ

(記 写真 大友 博道⑯)

やどりき水源林ミニガイド

「森の案内人」

案内人は、皆様をお待ちしています。

水源林にお出かけください。

やどりき水源林ニュース 9 月号
発行しました。



<http://www.forest-kanagawa.jp/4field/news/news198.pdf>

●やどりき水源林問合せ:

(公財)かながわトラストみどり財団

TEL: 045-412-2255

FAX: 045-412-2300

●ホームページ: <http://www.ktm.or.jp>

E-mail: midori@ktm.or.jp

森のなかまは過去号もご覧になれます。

(ホームページ) <http://www.forest-kanagawa.jp/3kiroku.html#kiroku01>

(HP 担当: 大友 博道)

◇ 森のなかま原稿募集 ◇

会員読者の皆様から広く募集しています。

<広報全般についてのお問い合わせ>

黒川 敏史

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

Tel: 080-5477-2206

<電子配信会員向け担当> 笠原

Mail: happy_kumakuma711@icloud.com

<電子配信企業等パートナー様向け担当>

柳澤 Mail: kshinrin_pr@icloud.com

<メール・手書き原稿送り先>

【本誌】黒川 敏史

Fax: 0467-46-8650

電話連絡先: 080-5477-2206

kurokawa.family@aa.cyberhome.ne.jp

【別冊】小林 照夫

Mail: ts pocket17@gmail.com

原稿は随時受け付けています。

年間通読のお申し込み

「森のなかま」年間通読をご希望の方は、郵便局備付けの郵便振替を利用してお申し込み下さい。

郵便振替口座 00230-0-2454

かながわ森林インストラクターの会

宛まで2000円をお振込み下さい。振替用紙には、必ず、住所、氏名を明記して下さい。振替用紙到着の翌月号から12回/1年間お届け致します。

編集後記

★猛烈な暑さが続いていたり、9/17～9/20の台風の影響の大荒れ天気天候も不安定でしたが、そんな中9/10の中秋の名月の日、昼はやどりき案内人日でしたが、午前/午後ともお客さんがあり案内業務が充実できました。夜は素晴らしいまん丸なお月さんでした。よくわからないかもしれませんがまん丸な事がわかる写真を撮りましたので掲載します。(松本)



★雑草を見つけるにつけ、目の敵のようにすぐに取り除いてしまう。しかし、完全に取り除くのは自然界にとってはマイナスのようだ。取り除かれたことに困った虫たちは、庭木や花などに移動してしまい病虫害の原因をつくるらしい。雑草は根ごと抜き採ることにはせずに地際で刈り取り、草の勢いを抑える程度が良いのだそうだ。除草剤散布など、もっての外と言えようか。(中澤)

★今年の夏は暑くて近場の山歩きもままならず「特急あずさ」で長野の山へ行って来ました。ゴンドラで頂上近くまで行き、2時間ほど歩くと360度の展望を望める頂上。途中にはリンドウ、ワレモコウ、キリンソウ等の花が咲いていました。(阿藤)

★高齢者の知恵に、学びが有りました。私も70歳になりシニアの方との接点が多くなり先日92歳の元気なおばあちゃんの話聞く機会がありました。難病で長い看病の末ご主人を亡くされたそうです。とても苦しく苦難だった思い出の話の一方で、自分の至らなさを悔やんでいる姿を拝見し、自分が変われば、苦難を苦難と感じないという話に感動を得た。

森林インストラクターも相手を責めるのではなく、自分を改める事を大事にしたいと思った日であった。

(小林)

【再掲】本紙に長期にわたり「森のめぐみ」の寄稿いただいている谷田貝先生の本が出版されました。(9月号2ページに紹介記事を掲載しました)

是非皆様ご購入いただき、科学的な側面から見た、「草木のめぐみ」の知識を仕入れ、インストラクター活動時の講話などの話の深みを増してください。

購入は、「海青社」のホームページ [海青社 eStore・トップページ](http://www.kaiseisha-press.ne.jp) からお入りください。支払はクレジットカード、振込などが選択できます。

広報部 黒川

編集人: 黒川 敏史

広報部: 吉田郁夫 松本保 笠原かずみ 阿藤壽孝 長尾晴子

竹内明彦 柳澤千恵美 小林照夫 中澤良夫

支援: 大原正志 江頭淑子